

平成18年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	説得力のある起業家を育成するためのプロジェクト		
法人名	学校法人龍馬学園		
学校名	国際デザイン・ビューティカレッジ		
代表者	理事長 佐竹 新市	担当者 連絡先	山地 斉 TEL 088-825-3303

1. 事業の概要

専門学校において起業家育成教育は、職業観の醸成や産業界から求められている「ビジネスマインドを持った、自らの考えを具現化できる」人材育成に効果があるため、積極的に教育科目として導入が進められている。しかしながら、従来の専門技術教育とは異なる面が多く、教材や教員の不足、教育システムの未整備により十分な効果があげられていない現状である。

本事業は、説得力のある起業家育成を目的として、専門学校が起業家教育を展開・発展させるために、「自ら考えることができる人材」の育成をベースに論理的思考力と自己表現力の養成を目指し、説得力養成教材とケーススタディ教材を開発した。開発した教材を用いて学生を対象に研修会を開催し、教材の検証を行った。

また、ビジネスプロデュース審査会を開催し、学生の立案したビジネスプランの審査を行うとともに、プレゼンテーションの実施により、発表の場、起業家との接触の場、さらに起業機会の創出の場を提供し、起業家育成教育を実践した。

開発された教材および総括報告書は、専門学校へ広く配布し、起業家教育へ役立てていただくとともにその普及を図った。

2. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

本事業は、起業を目指す学生のために専門学校、産業界の両方からの要望を盛り込んだ教育プログラムを開発し、学生の起業を支援することを目的とした。

説得力養成にポイントを置き、説得力養成教材・ケーススタディ教材の開発、説得力養成研修会、ビジネスプロデュース審査会を実施した。

教材開発→研修会→発表の場としてのビジネスプロデュース審査会という一連の教育プログラムは、学生の説得力養成に効果が確認され、学生の気付き、自ら学ぶことに対する有効性が実証された。さらには、グランプリを獲得したビジネスプランに企業2社より事業化の打診があり、教育プログラムを通して学生の起業を支援するという目的は達成された。

## ②事業により得られた成果

### ■説得力養成教材

昨年度事業で会社経営者より指摘された「物事を論理的に捉え、妥当性や正当性を追及していく力と、自身の考えを相手に伝える自己表現力」をポイントにおき、テクニックではなくマインドを中心として開発を行った。また、「説得」をゴールとするのではなく、「相手を納得させること」をゴールとする能力の養成をねらいとした。研修会で教材の有効性が確認されるとともに、ビジネスプロデュース審査会では、審査員からプレゼンテーション、質疑応答の対応が非常に高い評価を受けた。

### ■ケーススタディ教材

昨年度事業の要望から、参考事例のラインナップを増やすことをポイントとして開発を行った。さらに、説得力養成を支援するため、出資者に資本金を出して頂けるレベルの説得力とビジネスマインド等のコンセプトチュアルスキルを身につけさせることを目的にした。ビジネスプランのケーススタディの他、コミュニケーション能力およびネゴシエーション能力の開発を目的としたグループワーク演習を加えた。実践的で優れた教材であるとの高い評価を得たが、指導する教員に高いレベルの指導力が要求されるとの指摘があり、指導方法に課題が残った。

### ■ビジネスプロデュース審査会

開発した教材を用いて学習した学生に発表の場を提供し、専門学校生の起業意識の定着および発想力の向上、専門学校生と「実際の起業家」との交流をはかり職業観を養う、異分野の専門学校学生間の人的・教育的交流の促進を目的としてビジネスプロデュース審査会を開催した。

専門学校11校から53プランの応募があった。一次審査(書類選考)により、12プランが選考され、プレゼンテーションを実施した。

「場」を提供することにより学生自らが気付き、学ぶことをあらためて確認することができた。また、グランプリを獲得したビジネスプランには、企業2社より事業化の打診があり、ビジネスプロデュース審査会などでの評価が実社会での評価につながり、起業機会を増やす結果となることが実証された

## ③今後の活用

開発した教材は、平成19年度より当校、すべての学科に教材としての活用が決定している。さらに、専門学校13校で、平成19年度授業に使用することが決定され、学生587名に配布されることとなった。

このほか専門学校3校が教材としての活用を検討しており、様々な活動の中で教材を紹介し、導入する専門学校を増やし、広く普及に努めたい。

また、教材の紹介・導入の施策として、専門学校教員に対する説明会や教材の仕様豊などの研修会の実施を計画している。

#### ④次年度以降における課題・展開

本事業では、説得力のある起業家の育成を目的とし、教材開発から研修会から発表の場の提供を実施した。この成果をもとに教育プログラムを確立し、起業家教育の更なる発展に努めたい。

##### 1 教育手法の確立

多くの専門学校から指摘のあるように、起業家教育は従来の暗記や訓練を中心とする専門技術教育とは異なり、気付きや自ら学習することが重要である。

本事業開発教材をベースに専門学校教育に活用できる教育システムとして「学生自らが気付き、学ぶこと」に効果の高いビジネスプロデュース審査会を継続的、安定的に開催し、専門学校の起業家教育カリキュラムの一環として取り入れることができるよう体制整備を図ることとしたい。また、専門学校の教育の現場で「学生自らが気付き、学ぶこと」の教育を実践することの重要性から、これら教育を実践できる教員の育成が急務であると考えている。

##### 2 ビジネスプロデューサ育成教材

本事業では、説得力に重点を置いた研究・開発を実施し、高い評価を得たが、一方で説得力にポイントを置くあまり、本来、ビジネスプラン・事業計画の裏付けをするための情報収集などが、プレゼンテーションにしか活用されず、ビジネスプランの組み立てに課題を残した。これまでの教材では、アイデアを数値化することをポイントとしてきたが、さらに質を高めるためには、アイデア、情報収集、情報分析などの具体的な数値へ落とし込むことの必要性が指摘された。

本事業で開発した教材をもとにアイデア、情報収集、情報分析からビジネスプランの策定をするための研究・開発および教育の実践を行うこととしたい。

起業家教育を実践する多くの専門学校に参加いただき研究活動を継続してゆくために、今後も行政からの支援を期待したい。

### 3. 事業の実施に関する項目

#### ③実証講座

##### ■説得力養成研修会

開発した説得力教材を用いて、専門学校学生を対象に説得力養成研修会を開催した。成功事例・失敗事例をもとに説得力とは何か、経験の少ない学生が説得力を持つために必要なものは何かを解説し、立案したビジネスプランをどのように相手に伝えれば理解を得ることができるかを学習し、教材の検証をした。

(1)岡山会場 中国デザイン専門学校

平成18年12月25日(月)

参加者15名

(2)高知会場 国際デザインビューティカレッジ

平成19年1月10日(水)

参加者41名

(3)東京会場 京王プラザホテル

平成19年1月16日(火)

参加者17名

研修会終了後のアンケートでは、教材について参加者の91.7%(67名/73名)が「興味を持つ内容である」と回答し、98.6%(72名/73名)が「説得力について理解が深まった」と回答し、説得力養成教材の有効性が確認された。

##### ■ビジネスプロデュース審査会

開発した教材を用いて学習した学生に自己の立案した発表の場を提供し、専門学校生の起業意識の定着および発想力の向上、専門学校生と「実際の起業家」との交流をはかり職業観を養う、異分野の専門学校学生間の人的・教育的交流の促進を目的としてビジネスプロデュース審査会を開催した。

関連する学科を持つ専門学校825校に募集要項・ポスターを配布し、参加を促した。ビジネスプランは、専門学校11校から53プランの応募があった。一次審査(書類選考)により、12プランが選考され、プレゼンテーションを実施した。

審査会終了後の参加学生のアンケートでは、「審査員の質問を予測し、事前に準備をした」など説得力養成教材が有効であることが確認された。審査員からは、「プレゼンや事前の情報収集などは非常に良いが、ビジネスプランそのものは収支試算に甘さが目立った」との指摘を受け、ビジネスアイデアと収集した情報の数値化に課題を残した。

なお、グランプリを獲得したビジネスプランには、企業2社より事業化の打診があり、ビジネスプロデュース審査会などでの評価が実社会での評価につながり、起業機会を増やす結果となることが実証された

#### ④その他

本事業は、単に起業家を育成する教材開発、教育プログラム開発だけではなく、学生の起業を支援することを目的とした。そのため、実社会からの評価を意識し、特に参画している企業の委員や審査員を依頼した起業家や会社経営者から情報収集と実社会の評価について解説をいただき、教材やビジネスプロデュース審査会の審査基準に反映させた。